

## いい家を安く建てることはできないのだろうか？

研究というと大げさですが、コストを下げてでも住み心地を悪くしない家づくりをいろいろと考えています。

今の家は高すぎると思うようになりました。

以前は省エネのための家づくりを試行錯誤で行ってきました。

断熱材やサッシを高性能なものにし、夏涼しく冬暖かい家にするというものです。

しかも少ないエネルギーでそれを実現できるのが、省エネルギー住宅の技術です。

それはそれで、確かにこれからは必要な技術でそのような家しかこれからは法的にも建てられなくなるのですが、唯一の欠点は素材そのものの価格が高いということです。

高い素材を使った家ですから結果、販売価格、建築価格が高くなります。

それでも、ある一定の収入がある方は、問題ないのですが、収入が少ない方、又は家の建築には多くのお金を使いたくない方は仕方なく安い素材を使った低性能な家しか手に入れることができませんでした。

そして、そのような人達に色々な話を聞くと、希望は建築コストは下げたいけど、単に安い材料を使った安いだけの家には住みたくないということでした。

普通に考えれば、お金は出したくないけどいい家は欲しいということで、すから建築業界の人間からしたら、そんなことできるわけがないだろうという話になるのは当然です。

それはそれで、真っ当な話です。

**いいものは高い！**

しかし、このいいものは高いという常識に挑戦したくなったのです。

建築費用が少なく、いくら安い家と言っても 1000 万円以上のお金を出すのですからそれが単に安いだけの家ということでしたら、賃貸マンションやアパートでもいいはずです。

私は賃貸マンションやアパート暮らしでは得られない幸せな暮らしが  
一戸建てにはあると思っています。

その一戸建てが絵に描いた餅ではいけないと思い、コストを下げて  
住み心地が悪くならない建築を研究しています。

コストを下げることで収入が少ない人にも、家づくりに多くのお金を使  
いたくない人にも土地付きの一戸建てを提供できるようになります。  
そして、コストを下げて住み心地を良くすることはこれから家を建てる  
人のためだけではありません。

私たち建築に係る業界人にもいいことです。

コストを下げればその家を買う人、建てる人が増えます。

それは私たちの仕事が増えるということです。

これから家を建てる予定のある人と大工さんを初め、建築関係の仕事をしている人のためにコストを下げてでも住み心地が悪くならない建築は必要なのです。

ただ、一般的な常識を覆し非常識なことをやろうとしているのですから、これからどうなるか分かりません。

しかし、誰もがコストを下げていい家に住みたいというのは共通した常識みたいなものですから最後までやり遂げたいと思っています。

そして、half of 50 という価格も半分、間仕切りも半分というのが常識ある賢い人の家づくりのスタンダードになることを願っています。

ご挨拶が遅れました。

私は有限会社 建築サポートの代表高井と申します。

自分が良いと思うもの感じるまま、に家づくりをしております。

また、それは施主様にとってもいいものではなくてはなりません。

建築サポート 高井